

22 世紀八幡ルネッサンス運動 (略称：八幡ルネ) 企画作業チームニュース

ひるば

八幡市民の幸福の増進のために活動する。古い歴史を有する八幡の秀でた伝統を継承し、八幡市民の総意と英知を結集して活動する。町の隅々にわたり高い関心を払い、たくましい意志と情熱を貫いた粘り強い行動で、光とうるおいある生活と文化を享受するように努める。

■発行：22 世紀八幡ルネッサンス運動
企画作業チーム ひろば編集部

■事務所：八幡市八幡高畑 10-76
TEL/FAX075-981-6505
090-3710-4842

■橋本連絡所：八幡市橋本興正 7-4 075-971-9488

■男山連絡所：八幡市男山指月1-12 080-3780-6140

■川口連絡所：八幡市川口東扇 1-4
080-3775-8133

■振込口座：京都中央信用金庫八幡支店
普通 5243582
22 世紀八幡ルネッサンス運動

第10 回定時総会開かれる

NPO 法人 22 世紀八幡ルネッサンス協会の定時総会が 4 月 25 日、八幡市立市民協働活動センターで開かれ、13 名の会員が参加しました。

3 月 21 日、八幡ルネッサンス協会が中心になって市役所広場で開催された「遊びながらエコを考える 三世代交流イベント」は、午前はワールドベースボールクラシックのメキシコ戦の視聴に阻まれ、午後は雨になる悪条件でしたが、350 人の参加があり、伊藤代表理事は「成功したと思う」と述べました。

イベント実施は京都府の補助金助成から始まり、不慣れであったため多大な努力を使いました。イベントの実行委員会は準備会の 5 回を含め、23 回開催されるロングランとなりました。

議事は堀理事の司会で進められ、1 号議案から 4 号議案まで、藤村顧問、土井副代表理事、伊藤代表理事が説明を行い、討論の末に了承されました。

また、伊藤代表は「必要とする取り組みのため定時総会の開催を待たず、積極的に新しい理事を迎える努力をすることが大切である」と強調しました。

定時総会で選出された今年度の役員は、次の通りです。

代表理事 伊藤錫治 (再任)

副代表理事 土井三郎 (再任)

理事 須藤邦弘 (再任)

福川 肅 (再任)

鍋川浩二 (再任)

杉山恵美 (再任)

佐藤長作 (再任)

宇治川春子 (再任)

古川せいこ (再任)

山村元秀 (新任)

フローム・ロード
VOL. 21 2023. 4. 28

コテコテの「ゴミ捨て場」
片付くことも少なくなる

街にはいろいろな物が落ちています。その代表格と言われるものは吸殻やペットボトル、紙片である。

吸殻については、かつて私たち清掃する仲間内で、自分の吸殻を捨てる一方で拾っていたという、笑えない根深い事実がある。それだけ吸殻を捨てるのが身についていたわけだ。

最近、三本橋の交差点と株公久の間で拾った吸殻の数を数える定点観測を行っている。捨てられる吸殻が多くなっているのか、或いは少なくなっているのかを調べるためだ。

市内中心部のゴミは減ってきているけれど、そんな中で目立っているのがペットボトルである。路脇や草むらによく放られている。フタを取り、中身を抜き、シールを剥がして、裸のペットボトルを近くの自販機の受箱に入れる。

紙片については、吸殻より多いかもしれないと考えている。細かい紙片は相当に多い。注意していなければ、大半は気づかないかもしれない。

街からゴミをなくすための大事な点

は、継続して活動することではないかと思う。その時は気持ちがあっても、なかなか長続きしないことも多い。よくあることだ。

継続する利点はいくつある。継続することで地理に詳しくなり、状況の変化もわかり、次第に愛着がわいていくことが挙げられる。ゴミがどこに多いのにも気づき始める。

ゴミの多く集まっている所は片付けるのが大変なので、放置してしまうことが普通である。なかなか手が出しにくい。特に重い物がかぶさっているような所は、最初からあきらめ顔だ。

そういう時はどうするか。とりあえず重い物をなんとか移動させてみる。その下に細かいゴミが落ちていることもよくある。簡単に運べそうなゴミを少しずつ継続して拾っていく。

片付けが進むと、人間というのは不思議な動物で、だんだん前のめりになって、重い物は車で運ぶかとか、行政に連絡してみるかとか、積極性が出てくる。こうして、コテコテのゴミ捨て場が片付くことも少なくなる。

齊加尚代監督「教育と愛国」
上映会と講演会にご参加ください

―新たな戦前にさせないために―

同封のチラシにあります通り、映画と講演の集いにご参加ください。映画は、数年前より京都シネマなど一般映画館で上映されたもので、最近、テレビのCS放送でも放映されました。大変に話題になったドキュメンタリー映画です。講演される齊加さんは、この映画を製作した監督です。

いま、学校現場では、教科書の記述をめぐって政治的な圧力と言わざるを得ない事態が進行しています。

具体的には、「従軍慰安婦」や日本の植民地支配に関わる「強制連行」の問題です。以前であれば、事実にして学校現場で教えられてきました。教科書にもきちんと書かれていました。二度と世界大戦やアジア太平洋戦争のような惨劇を繰り返させないためです。ところが、文科省の検定で合格した歴史教科書が、国会の場で取り上げられ、記述内容に変更が加えられたのです。教育と研究に対するあからさまな攻撃で、戦前に行われていたことが進行しているのです。

この映画と講演を通じて、愛国とは何か、平和を求めるとは何か、戦争の真実を知るとはどういうことなのかなどを考えてみたいと思います。

22 世紀八幡ルネッサンス協会が、この種のテーマで共同主催することは初めてです。但し、市民文化サロンや『きずな』誌を通じて、政治や平和の問題を論じてきたことも事実です。

戦前のような閉塞の時代を迎えないためにも、市民的なレベルで「立ち止まって考えてみたい」内容です。

6 月 11 日 (日) 午後 1 時開場。もし、会場である生涯学習センターへの交通手段などで心配な方はチラシにある問い合わせ先やルネの役員などにご相談ください。

NPO 法人 22 世紀八幡ルネッサンス協会

大谷川レポート

2023・5・2

アジサイ

アジサイ（紫陽花）はアジサイ科の落葉低木で、ガクアジサイを改良してつくられた日本生まれの園芸植物です。シーボルトによってヨーロッパに紹介され、数々の西洋アジサイ（園芸品種）に生まれ変わっています。

日本に自生するアジサイ属には、ほかにヤマアジサイ、エゾアジサイ、ガクウツギ、タマアジサイ、ツルアジサイなどがあります。これら自生種は、外周には花粉も実もつくらない装飾花があり、その内側に雌蕊、雄蕊をもつ両性花があります。これを「額咲き」と呼ぶようです。園芸品種にもガクアジサイはあります。

花が手毬のような「手毬咲き」のアジサイ（園芸品種）は、花序全体が装飾花に変わったもので雌蕊、雄蕊がありません。

アジサイの花は、土壌の酸性度（pH）の変化に反応したり、咲き始めと咲き終わりに色も変化したりします。

花の色をつくる色素は、アントニン、カロテン、フラボン、ベタレインなどですが、アジサイの色素はアントシアニンで、アルミニウムイオンと結びつくと水色となり、細胞液の酸性度が高いと赤っぽく、低いと青みが強くなる性質があります。

アジサイの花は、咲きはじめは白く、次第に青みを増し、咲き終わりに近づくとき次第に赤く変わります。

アジサイで有名な近くのお寺は、宇治の三室戸寺、長岡京市の楊谷寺でしょうか。

山路大谷川清掃は、前回雨天のため2カ月ぶりの清掃でした。蘆は2メートルほどに伸びていました。カメが水面に浮いていました。ツバメが飛び交い、ハクセキレイはエサを探していたようです。小さなクモが卵を抱えて移動する姿を見ました。生物も春になり、行動が活発になっているようです。

4月23日の第169回山路大谷川清掃は、8名の参加で土嚢袋161袋回収しました。

5月7日の第89回舞台大谷川清掃は、雨天のため中止しました。

【第170回

山路・大谷川の清掃のご案内】

■日時：5月28日（日）

午前9時半～正午（雨天中止）

■集合：旧あずま屋

（コノミヤ裏 八幡源氏垣外）

※会場設営にご協力いただける方は、集合時刻の30分～1時間前に現地にお集りください。

※用意して頂く物：厚手の手袋。その他の必要な物は用意します。

【第90回

舞台・大谷川の清掃のご案内】

■日時：6月4日（日）

午前9時～11時半（雨天中止）

■集合：大谷橋下流の休憩所（ベンチあり）

※会場設営・用意して頂く物は先と同様です。

《主催》NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会

連絡先：八幡市八幡高畑10-6

Tel 075（981）6505

携帯090・3710・4842



道路清掃にチャレンジ！

67歳 男性

「よっしゃ、やってみようか！」と、朝の道路清掃に参加しました。八幡ルネが土日と祝日に行なっている活動です。動機は、最近の運動不足。コロナ禍になって以来、出歩く機会が少なくなり、ならば自宅周辺を歩くだけじゃつまらない、街を歩きながら道路をきれいに

にするのもええじゃないかと決めました。

朝の9時からスタートです。長バサミを手に、箒やチリトリ、土のう袋などを装備したカートをコロコロと引っ張りながら道を進みます。吸殻、空き缶を拾い、路脇に溜まった土砂をすくい、気がつけば八幡高畑を出発して八幡千束まで来ていました。「ご苦勞様です」「お疲れ様、ありがとうございます」と、途中で声をかけられ、気分は上々。休憩をはさみながら約1時間30分の行程を終えました。

この日の歩数は約6000歩。心地よい疲労感を肴に、自宅でビールをグイ！ あなたもやってみませんか？



→伊藤代表の天下無敵のカート

地域ネコ風聞記

ほんまは犬好き男より

「地域ネコ」ってご存知ですか？

私もご近所のエリアで、仲間3人で担当日を決め。野良ネコたちに餌をあげています。当然、一度捕獲をして避妊手術を施してあり

ます。「野生なんだから、放っておけばいい」と言う人がいました。日本でネコは野生動物ではありません。野生に生息しているヤマネコとは違うんですよ。人間が捨てたから外で生きているんです。「飼えばいいでしょ」と言う人がいます。これまでも3匹のネコは保護して飼育になりましたが、それができたなら、野良ネコはいま

せんよ。あんたはどうですか？「庭で糞して迷惑なんや」と言う人がいます。ネコに悪気はありません。すみませんが片付けてやってください。「道歩いていても、ネコの臭いがしる」と言う人がいます。それはさすがにないでしょう。そんなネコはいません。繁殖させないので、地域ネコは寿命を全うすれば消えていきます。それでも消えないとしたら、またまた人間が捨てたのです。生きようとする者は生かしてあげたい。生きとし生けるものに、「でも」はありません。嫌いななら、そうじゃない人に任せ

てください。

岩合光昭さんの「ねこ歩き」にその土地の文化を感じます。文化とは、命を大切にすることだから

です。

訂正とお詫び

「ひろば」217号の訃報の記事

【誤】中西芳春さん

【正】中野芳春さん

お詫びして訂正いたします。